

## 磐田市立小中学校通学区域審議会

- |   |      |   |                     |
|---|------|---|---------------------|
| 1 | 日 時  | 平成 27 年 7 月 13 日 (月)  | 午後 2 時から午後 3 時 30 分 |
| 2 | 場 所  | 磐田市役所西庁舎 3 階  | 303 会議室             |
| 3 | 出席者  | 八木正弘 市議会議員<br>芥川栄人 市議会議員<br>神谷五郎 磐田市自治会連合会会長<br>匂坂義行 岩田小学校 PTA 会長<br>百鬼賢一郎 福田中学校 PTA 会長<br>兼子修美 磐田市立磐田中部小学校長<br>山本敏治 磐田市立豊田中学校長<br>村松昌和 元警察協議会会長<br>伊藤貴子 人権擁護委員<br>磯部公明 自治振興課長<br>鈴木智久 市民課長 |                     |
| 4 | 出席職員 | 教育長 学校教育課長 教育支援グループ長  | 担当指導主事              |
| 5 | 傍聴人  | 0 人   |                     |

### ●教育長挨拶

#### ○村松教育長

みなさんこんにちは。本日は出席ありがとうございます。先日ある会合で、子どもの数が少なくなっているという話が出ました。今後ますます厳しい状況が続きます。磐田市の出生率は 1.57。国は 2.07 を目安としており、それが実現できたとしても 2100 年までは減少していきます。そうした中、磐田市も施策を考えていかなければなりません。

ここに磐田市は小中一体校を整備構想という記事があります。磐田市は中学校区を学府と呼び一つのまとまりと考えています。学府一体校構想は 7 月末に正式発表となります。子ども達がどこの学校に通うかは大きな問題があります。通学区域の適正化・弾力化を行ってまいりましたが、安全性・利便性など今後大きな視点になると思われます。部活動等についても同様です。これから通学区について多くの課題が出てくるものと思われます。御審議よろしくお願ひします。

### ●協議

#### ○事務局

通学区域審議会にかかわる用語等の説明

通学区域審議会これまでの経過

通学区域制度の現状

●質疑応答

－磐田市の傾向について－

- Q1 県外の私立学校に通っている生徒は数字に入っているか。  
A1 住所を移されている方がほとんどであり、数字に入っていない。
- Q2 資料にある通学の利便性と安全の児童の例は、実際に測定して距離が短いのか。  
A2 実際に測定したが、距離が近くなり安全性が確保されている。  
ただ、地域の行事や子供会の活動など地元を大切にすることの話をさせていただいております。
- Q3 転居前の学校に通う児童生徒が55人と多いが、その理由は何か。  
A3 転居したが新住所地の学校に通わず、元の学校で卒業まで生活させてあげたいという保護者の考えで転居前の学校に通う生徒がいます。
- Q4 私立・国立中学校就学者について、この数字は少しずつ増えているのか、どのような傾向にあるのか。  
A4 微増している。私立学校も増えてきている。

－その他－

- Q1 豊岡東小学校と豊岡北小学校統合の上で苦労したこと、地域からどのような意見が出ていたか。  
A1 豊岡東小学校の複式学級を解消することは、子供の学習環境を考えた時に大きな問題でした。しかし、豊岡東小学校への愛着を重視する方と、子どもの将来や学習環境を心配している方との調整には時間がかかりました。地域の方や保護者の方との話し合いを何度となく重ねるうちに少しずつ理解をしていただきました。一方で小規模特認校制度を設け児童数を増やし、複式学級の解消を目指したが、あまり効果が見られませんでした。
- Q2 豊岡東地区のスクールバスはどのような現状か。  
A2 スクールバスについては、市のバス2台をつかって朝夕の送迎を行っている。行きについては南北二つのルートに分かれ学校まで送っている。帰りについては下校時間を見て、2台のバスで運用している。事前に学校から登下校時間等をお知らせし、家庭や子どもたちに伝えており、特に問題は発生していない。
- Q3 岩田小学校児童は、向陽中と豊田中の両方に行ける状態であるが、地域のまとまりとして考えると問題もある。また、岩田地区のスクールバスの話はどこまで進んでいるか。さらに安全面で考えた時、岩田地区だけでなく向笠地区でもスクールバスが必要との声もあるがどうか。  
A3 向陽中と豊田中のどちらでも行けるということではない。通学バスの件で

すが、様々な意見を伺いながら検討しているところであります。

- Q4 岩田地区は、バスが出れば向陽中に全員が通うというような意見があるのか。
- A4 歩道も整備された現在、向陽中に行っていた世代からすると何で自転車でいけないのか。バスは必要かとの意見もある。一方、豊田中に通っていた世代もあり、豊田中に通えるなら利便性・安全性で通いたいとの意見もある。意見はまとまっていない。
- Q5 子どもの事を考えると利便性・安全性が最優先と思うが、地域の人々の声を聞くと地域のまとまりについても考えないといけないが。
- A5 地域のまとまりって何か。学校も行政も地域もつくらなければいけない。磐田市そのものが地域のまとまりをつくっていかなければならない。
- Q6 東部小の児童が城山中と神明中に分かれてしまう現状がある。同じ中学校に行ける方がいいと思うが。
- A6 難しい問題がある。  
学区制度の見直しでは、平成17年度隣接区域選択制の話が議論となった。学校が選べるようになると、地域のコミュニティを壊してしまうという意見が多く出た。そのため、通学の利便性と安全を確保することにした。
- Q7 例えば、隣り合う二つの小学校の区割りを変更していく場合、地域からあげるのか、教育委員会であげるのか、またそれ以外か、これから一体校の話が現実的になるとどのような方法がよいのか。
- A7 住んでいる人々が話をあげていくことが望ましい。そして、通学区域審議会等で話し合いをしていくことがよいのではないかと。

○会長

今後の大きな流れの中で課題が見えてきた。それぞれの立場で市民の声や地元の声に耳を傾け、この審議会に役立てていただきたい。

○事務局

御審議ありがとうございました。